

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年4月13日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No. 3】

## 警察もJR内革マル組織の存在を指摘！

前号では、本間氏（元JR東労組役員）によるJR内の革マル派組織に関する陳述書の内容を紹介した。3月3日の証人尋問でも、本間氏は同様の証言を行ったが、その中で、「（JR東労組の地本書記長や中央執行委員など）組合の要職にある方たちの中で、マンガローブ、すなわち革マル派のメンバーになっていた方というのは多かったですか」との問いに、「はい、非常に多くいました」と証言し、また「革マル派によるシンパあるいはメンバーのリクルートというのは、日常的、継続的に行われていたんでしょうか」との問いには、「行われておりました」と証言した。この証言が正しければ、JR東労組に革マル派が着々と浸透し、「L読」などの学習会を通じて、日常的に活動家の育成が行われていたことになる。JR入社の若手組合員にも、既に革マル派の魔の手が…？

### 「マンガローブがJR内革マル派を指導している」と警察も公式に答弁！

ところで、本間氏が証言したJR内の革マル派組織については、警察も国会答弁で公式に指摘している。JR総連・東労組によれば、警察の主張はすべて“でっち上げ”ということになるのだろうが、信憑性が高いと考えるのが常識的だろう。以下に、2003年7月16日の衆議院内閣委員会における当時の警察庁・奥村警備局長の答弁を紹介する。

革マル派は、ただいま申し上げました通り、勢力拡大のために基幹産業の労働組合等各界各層に浸透を図ろうとしておりますけれども、このために党の中央組織の中に産業ごとに労働者を指導する労働者委員会を設けておりまして、それぞれ任務を分担しております。

その中にJRを担当する組織がございまして、これは通常トラジャと呼ばれて、JR内の労働者を指導しております。一方、JR労組内には、このトラジャの下部組織といたしましてマンガローブと呼ばれる組織がございまして、このマンガローブがJR内の革マル派の指導に当たっております。

このことは平成8年以降摘発をいたしました革マル派の非公然アジト17カ所から押収いたしました資料あるいは内部文書等からも明らかになっております。

警察といたしましては、こういう点を総合的に分析、検討いたしました結果、JR総連やJR東労組に対して革マル派が相当浸透していると分析結果を申し上げた次第でありまして、この見解は現在でも変わっていないところであります。

この答弁で触れている、革マル派の非公然アジトの摘発と資料の押収に関して、「週刊現代裁判」で焦点になっているのが、1996年8月に警視庁公安部が革マル派の「綾瀬アジト」を摘発し、押収した多数の重要資料を基に作成したとされる内部文書だ。西岡氏がこれを書証として提出したが、JR総連・東労組側は「警視庁幹部が機密文書を西岡記者に渡したことは公務員法違反」として東京都を告訴している。JR総連・東労組は、この文書の「内容はでたらめ」としながらも、警察が作成したものだとは認めている。警察の作成資料となれば、普通、真実性が高まると思うのだが…。

ところで、この資料の概要が4月1日発行の宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跎」に記載された。次号から、その驚くべき内容を紹介していきたい。